

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

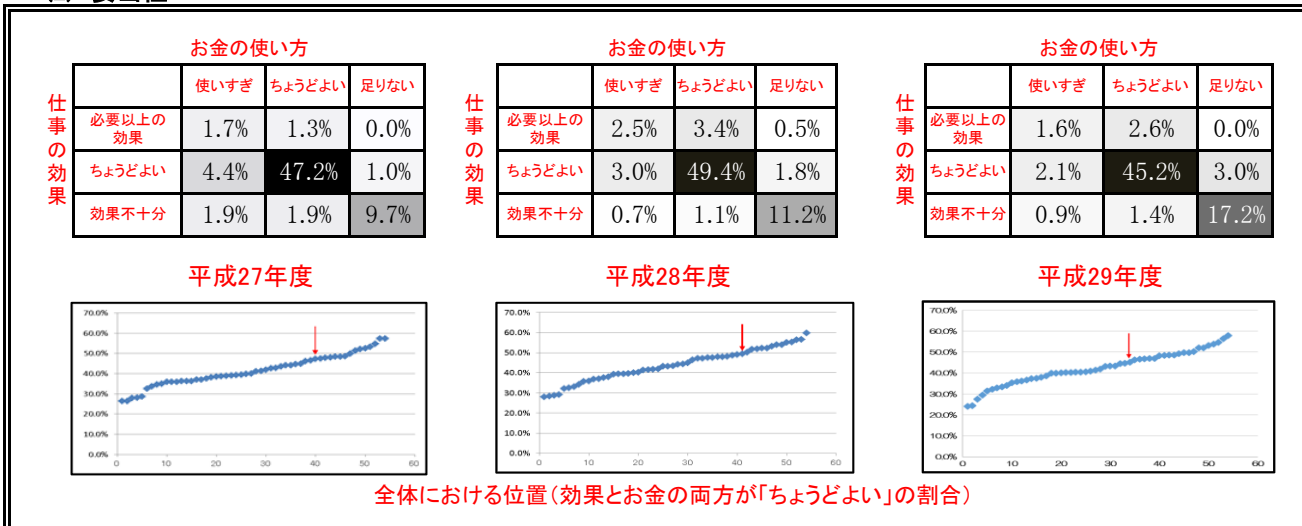
総合計画上の位置付け	分野	学校教育	施策の方針	学校施設の整備
目標とすべきまちの姿	平成22(2010)年度をもって既に完了している学校施設(校舎・体育館)の構造体の耐震補強に加えて、非構造部材の落下防止等耐震対策が講じられているため、児童生徒が安全かつ安心に学習できる環境が整備されています。 また、トイレ等衛生設備の整備など、健全な学習環境の構築に資する取組が進められています。一部の学校においては、エコスクールの推進に向けて、太陽光発電設備又はLED等次世代型照明器具が導入されています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成27年度	25.3%	平成28年度	21.3%	平成29年度	21.3%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成27年度	28.3%	42.5%	2.8%	26.4%
平成28年度	20.1%	51.2%	2.1%	26.6%
平成29年度	20.3%	45.9%	2.7%	31.0%

2 内部評価

(1) 平成29年度の目標

- ①小学校4校の普通教室冷暖房設備設置工事を行う。(教育-18)
- ②中学校2校の普通教室冷暖房設備設置工事を行い、平成29年度中に中学校全校の普通教室への冷暖房設備設置を完了する。(教育-19)
- ③小坂小トイレ(1系統)・富士塚小西棟トイレ改修工事を行う。(教育-18)
- ④熊本地震のような大規模地震に対する防災対策について、文部科学省の動向を注視し必要に応じて対応を図る。(教育-18、19)
- ⑤普通教室等に、LED照明器具の設置を進める。(教育-18、19)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成29年度の目標との関連性

- ①、②普通教室へ冷暖房設備を設置することで、健全な学習環境を整備できる。(教育-18、19)
- ③トイレ改修工事を実施することにより、衛生面においても健全な学習環境を整備できる。(教育-18、19)
- ④大規模地震等に対する防災対策など対応を図ることにより、児童生徒が安全かつ安心に学習できる環境が整備できる。(教育-18、19)
- ⑤LED照明器具の設置を進めることにより、エコスクールの推進につながる。(教育-18、19)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	平成28年度	平成29年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度		事業内容	予算規模
教育-18	小学校施設整備事業	185,441	513,947	526,779	170,572	1.7	1.9		b	A
教育-19	中学校施設整備事業	2,327,364	227,665	235,214	154,519	1.0	1.4		b	A

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】

- ①第一小学校外3校の冷暖房設備設置工事を行った。第二小学校外5校の冷暖房設備設置工事設計委託を行った。(教育-18)
- ②第一中学校外1校の冷暖房設備設置工事を行った。(教育-19)
- ③富士塚小学校及び小坂小学校のトイレ改修工事を行った。関谷小学校北棟のトイレ改修工事設計委託を行った。(教育-18)
- ③腰越中学校のトイレ改修工事設計委託及び特別支援学級教室改修工事を行った。(教育-19)
- ④学校施設の老朽化状況調査委託を、平成29年度と30年度の2か年の事業として開始した。
- ④御成小学校旧講堂の改修工事設計委託を、平成29年度と30年度の2か年の事業として開始した。(教育-18)
- ④御成小学校の児童数増に対応するため、仮設校舎を賃借した。(教育-18)
- ④大船中学校校庭整備工事を平成28年度と29年度の2か年の継続事業として実施し、一部未了のため、平成30年度へ繰越した。(教育-19)
- ④学校施設の老朽化状況調査委託を、平成29年度と30年度の2か年の事業として開始した。(教育-19)
- ⑤LED照明器具の設置を推進し、普通教室等にLED照明器具を設置した。(教育-18、19)
- ⑤トイレ改修工事では節水型衛生器具を採用し、照明器具は人感センサーを設置した。(教育-18、19)

【実施できなかった事業とその理由等】

- ④大船中学校校庭整備工事について、集中豪雨や大雪のため工事ができない期間が多かったため一部未了となったことにより、平成30年度へ繰越した。(教育-19)

(5) 平成29年度の実績の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ・児童生徒が安心して学習できる環境を整えるため、計画的に施設整備が進められた。しかしながら、限られた財源を踏まえつつ学校施設整備を推進するため、最小の経費で最大の効果が得られるよう、事業手法、財源確保策等について検討を行っていく必要があると考えている。(教育-18、19)
- ・「取組を知らない・わからない」と答えている人の割合が回答者の20%を超え、また、効果不十分の割合が年々高くなっていることから、広報を含め適切な成果となるよう改善を図っていききたい。(教育-18、19)

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

- ①、②、③、④、⑤引き続き計画的な施設整備を進めていき、教育環境の改善を図っていく。また、トイレ改修工事を加速化させるため、事業手法の見直し、基金活用による財源確保等により実施していく。
- ①、②、③、④、⑤この事業に関する取り組みの認知度及び適切な効果が得られていないことから、HP等での広報も含め、周知方法を検討していく。

(7) 平成30年度の目標

- ①平成31年度の全校普通教室への冷暖房設備設置完了に向け、計画に基づき小学校6校の設置工事を進める。(教育-18)
- ②トイレの改修を加速化し、平成32年度までの3か年で12校20系統(小6校10系統、中6校10系統)のトイレを改修を完了するよう事業着手する。(教育-18、19)
- ③一部未了のため、平成30年度に繰越した大船中学校校庭整備工事を完了させる。(教育-19)
- ④学校施設の老朽化の状況を調査し、長寿命化や改築、大規模改修等の施設整備計画の策定を進める。(教育-18、19)
- ⑤照明器具はさらにLED化を推進し、トイレ改修工事では節水型衛生器具の採用や照明器具に人感センサーを設置する等、学校施設整備時に合わせながら、エコスクールの取組を推進する。(教育-18、19)

(8) 目標とすべきまちの姿と平成30年度の目標との関連性

- ・①、②、③学校施設整備に関する事業の実施については、教育環境の改善が図られ、健全な学習環境の構築に資する。(教育-18、19)
- ・④の施設整備計画の策定は、児童生徒が安全かつ安心に学習できる環境を整備するための基本となるものである。(教育-18、19)
- ・⑤LED照明器具の設置やトイレの照明器具に人感センサーの設置を進めることにより、エコスクールの推進につながる。(教育-18、19)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	教育-18	事業名	小学校施設整備事業									
指標の内容	普通教室への冷暖房設備設置						単位	校	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由 計画通り平成31年度までに小学校全16校の普通教室に冷暖房設備を設置する。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	平成31年度に全16校設置完了で100%とする。平成29年度は4／16校で25%。				
	目標値	—	—	—	4.0	10.0	16.0					
	実績値	—	—	—	4.0							
	達成率	—	—	—	25.0%							
整理番号	教育-18	事業名	小学校施設整備事業									
指標の内容	トイレの改修						単位	系統	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由 6校10系統のトイレが未改修(平成29年度末時点)だが、平成32年度までに全て改修を行う。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	平成32年度までに、全ての改修を完了する。平成32年度は4系統実施予定。				
	目標値	—	—	—	2.0	3.0	8.0					
	実績値	—	—	—	2.0							
	達成率	—	—	—	16.6%							
整理番号	教育-19	事業名	中学校施設整備事業									
指標の内容	普通教室への冷暖房設備設置						単位	校	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由 計画通り平成29年度までに中学校全9校の普通教室に冷暖房設備を設置する。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	平成29年度に全8校(改築により設置済みの大船中を除く)設置完了。				
	目標値	—	—	6.0	8.0	—	—					
	実績値	—	—	6.0	8.0	—	—					
	達成率	—	—	75.0%	100.0%	—	—					
整理番号	教育-19	事業名	中学校施設整備事業									
指標の内容	トイレの改修						単位	系統	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由 6校10系統のトイレが未改修(平成29年度末時点)だが、平成32年度までに全て改修を行う。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	平成32年度までに、全て(10系統)の改修を完了する。平成32年度は4系統実施予定。				
	目標値	—	—	—	—	1.0	6.0					
	実績値	—	—	—	—							
	達成率	—	—	—	—							

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・国の動向以前に鎌倉の自然、気象条件、地形に着眼している環境整備という印象が薄い。
- ・東日本大震災、熊本地震のような大規模地震に対する防災対策が必要であるが、老朽化の進む学校施設に対し限られた予算の範囲で、学校施設の維持保全・延命化は課題である。
- ・普通教室への冷房設備設置については、平成31年度までに小中学校全校に設置できるよう計画とあるが、小学校に対して本当に必要なのか。
- ・昨年と引続き、エコスクールに関する取組の記載がないのが残念である。



指摘への対応、コメント等

- 学校施設の整備にあたっては、立地条件等の地域特性に応じた整備に努めておりますので、取組が分かるよう工夫をしていきます。
- 学校改築や大規模修繕にあたっては、多額の費用が必要となることから、国の整備指針等に則り、補助金を有効に使うことが重要です。また、限られた予算を踏まえつつ、事業手法の見直しなども含め、学校施設の維持保全・延命化に努めていきます。
- 近年の地球温暖化等の影響もあり、特に上階の教室は高温状態になることもあります。このため、冷房設備の無い学校の教室では、熱中症などの危険性もあります。子どもたちに健全な学習環境を提供するためには、冷暖房設備の整備は必要なことと考えています。
- 学校の照明設備は、順次LEDに更新しています。目標や実施内容にも記載しました。今後とも、学校の施設整備にあたっては、環境を考慮した学校施設(エコスクール)の整備を行います。

提言

- ・大規模地震に対する防災対策は即、対応できるよう図ってほしい。
- ・限られた予算の範囲で、学校施設の維持保全・延命、プライオリティを考慮しながら効率的な整備が必要である。
- ・時代の流れからも、設備によらない、生徒たちへのエコ意識の育成という観点からの環境整備(グリーンカーテンを作る、みたいな)、取組を他の施策と並行して行ってもよいのではないかと。
- ・教育施設の維持管理・充実が絶対に必要なことであるため、それをどの様に効率的、経済的にやっているかを、明記すべき。
- ・LGBTの子供達への施設利用が急務である。環境設備はプライオリティーを十分考慮した順であってほしい。



提言に対するコメント等(総論)

- 昭和40年代から50年代の児童生徒急増期に建設した学校施設の老朽化対策が喫緊の課題となっています。
- 現在、今後どの程度の期間使用可能か、改築しなければならないのか、大規模改修などにより長寿命化対策を図れるのかを調査しています。
- 児童生徒が安全かつ安心して学習できる環境を整備するため、限られた予算の範囲内で、優先順位をつけながら、児童生徒にとって望ましい教育環境が確保できる学校施設の整備を計画し、実行していきます。
- また、LGBTや特別な支援を要する児童生徒の個性に応じた教育的ニーズも捉え、みんなのトイレを設置することや、特別支援学級を全校に設置するなど、施設の改修等を進めています。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・老朽化の進む学校施設及び設備について、限られた予算の範囲で、学校施設の維持保全・延命化に努めている中で、ほぼ計画どおりに施設整備事業を実施した。
- ・エコスクールの推進については目標とすべき姿に掲げられている。照明器具はさらにLED化を推進し、トイレ改修工事では節水型衛生器具の採用太陽光発電設備又はLED等次世代型照明器具の導入を行っていく等の指針が示されている。
- ・普通教室への冷房設備設置、トイレの改修を計画的に実施している。中学校は全て設置された。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↑	1	↓	0	→		→
効果	○	1	△	1	—		—

《課題》

- ・東日本大震災、熊本地震のような大規模地震に対する防災対策が必要であるが、老朽化の進む学校施設に対し限られた予算の範囲で、学校施設の維持保全・延命化はプライオリティを考慮しながら効率的な整備が必要である。

《提言》

- ・鎌倉市公共施設再編計画との整合性を考慮しながら、改築や大規模改修等の実施してほしい。冷房設備設置工事、トイレ改修工事などいずれも必要な事業として理解できるが、限られた予算の範囲で、学校施設の維持保全・延命、プライオリティを考慮しながら効率的な整備が必要である。
- ・学校施設は児童生徒のために安全・安心して利用できる建物であるのは当然だが、同時に、災害時に児童生徒のみならず市民の災害避難拠点となり得る施設である。そのことを踏まえて、災害の際にも最低限の電力が確保できる(自家発電？太陽光とか？)、水が供給できる(受水槽タンクの設置や中水利用？)ような設備を整備していく必要があるのではないかな。それらとエコスクールの推進と絡めながら、計画していくことはできないか。分野は異なるが、防災関連事業と連携して効率的に進めることはできないのか。
- ・「健全な学習環境の構築に資する取組が進められている」という「目標とすべきまちの姿」に対して、「トイレ、冷暖房」「防災対策」「LED」以外の設備に関しての取組に期待する。
- ・「目標とすべきまちの姿」は一部の学校においてエコスクールの推進に向けて次世代型証明器具が導入されていますとあるが、目指すならば一部ではないはずである。
- ・「目標とすべきまちの姿」にある「平成22(2010)年度をもって既に完了している学校施設(校舎・体育館)の構造体の耐震補強に加えて、非構造部材の落下防止等耐震対策が講じられているため、児童生徒が安全かつ安心して学習できる環境が整備されています。」について、「耐震補強」が必要な構造体が全部で何力所あり、どの様な対策が必要であるのかを明確にし、「指標」として明示すべき。
- ・「指標」の「普通教室への冷暖房設備設置」「トイレの改修」について、目標値と実績値が同一であれば本来達成率は100%であるが、達成率は全校をもとに算出している。最終目標を備考欄に記載し、年度の目標値で達成率を算出すべき。